



第11回「あの森を訪ねて」は、引地川の源流で美林50選地の大和市「泉の森」を訪ねる。そして、泉の水とともに川を下り、地域住民が植えたという千本桜の回廊を見ることにした。

コースは、小田急江ノ島線「鶴間駅」～泉の森～ふれあいの森～厚木飛行場に沿って引治川を下り～千本桜～小田急江ノ島線「高座渋谷駅」。距離約8.5km。

途中、ふれあいの森から1km弱で大和駅に行くこともできる。

この場合は距離4.5kmほど。

鶴間と矢倉沢往還（大山街道）、

鶴間という地名は大和市、相模原市、町田市にまたがる広い地域の地名。名前の由来説は種々ある。

鶴間駅そばを通る広い道が矢倉沢往還、大山参詣の道でもあったので大山街道とも呼ばれている。

泉の森と反対方向2kmほどの所に大山街道と八王子街道の宿場として賑わった「下鶴間宿」があった。今も、わずかに寺や家並のたたずまいに面影を残している。

機会があれば訪れるとよい。

大山街道の有名人は渡辺崋山。

早川村（綾瀬市）のお銀様をねたさいの絵付紀行文「游相日記」を残している。崋山は田原藩の家老であり、国宝鷹見泉石像を描いた画家、そして蛮社の獄で知られる蘭学者でもある。下鶴間宿のまんじゅう屋に泊まっている。

泉の森に向おう。街道の雰囲気はどこにもない普通の道だが、歩道の傍らに街道を示す立派な石柱がある。しばらく歩くと、左手に泉の森の樹林が見えてくる。

泉の森

この森は、その名のとおり泉の湧く森。引地川の源流にあたり、保全と活用を視点に42haの公園として整備されている。

案内標識にしたがって、鬱蒼とした樹林地と住宅地の間の道を少し歩くと園内となる。



コナラ、ミズキ、ケヤキ、杉、サワラ、イヌシデ等の高木が天を覆う散策路をたどって行くと池が見えてくる。

池の周囲は、水道の水源地としてフェンスで囲われており近づくことはできない（表題写真）。

一帯の林は、水源地を取り巻く水源涵養林として大切に育てられている。山の彼方の水源林でなく住宅街のすぐそばの水源地はめずらしい。水源涵養だけでなく森林の持つ様々な働きを身近に実感さ



せてくれる貴重な存在の森林となっている。

泉の水

相模原台地に降った雨が地上に湧き出た水の利用は、付近に縄文時代の遺跡が見つかっていることからもはるか昔に遡る。そんなに昔でなくても、戦前には軍が水を汲み上げて関係施設に給水し、戦後になって大和町水道として利用され、昭和29年（1954）には県営水道として約2千戸に給水していた。今は非常用水源として管理されているとのこと。



園内には「みどりのかけ橋」という木製斜張り橋がある。

長さは53mもあり、橋の上からは下に広がる湿生花園と池、それを取り囲むようなシラカシ林が

一望でき、まことに気持ちがいい。

水と緑があふれ、かつ調和したすばらしい所だが、難をいえば、この公園はすぐそばの厚木飛行場の滑走路の延長線上に位置するため、時折、轟音とともに樹上をかすめるように飛ぶ飛行機にビックリさせられる。

これも又ひとつの現実。

シラカシの森

訪ねる森は、斜面長約10m、延長180mほどの段丘崖に帯状に生育するシラカシ林。

シラカシの池と段丘上の住宅地に挟まれている。



美林50選地であり、県の天然記念物に指定されている。まとまったシラカシ林がなくなった今、前々回に訪れた東高根のシラカシ林と同様に郷土の原風景を残す林である。



林内はシラカシのほかケヤキ、ミズキ等の高木とヒサカキ、モチノキなどの低木、ジャノヒゲ等の草本類がみられる。

シラカシは「白樫」とかき、材が白く堅いことからこの名がある。

仲間のカシ類は、アラカシ、アカガシ、イチイガシ、ウラジロガシ、ウバメガシなど。

シラカシは街路樹などにも植えられることが多く、カシ類ではいちばん目につく木である。

野鳥の撮影に夢中になっている人たちがいる。

しかし、残念なことに森が一年のうちで一番躍動的で美しく、まさに山笑う季節だが、後ろのシラカシ林を見ている人は誰もいない。

天然記念物指定の解説版と美林50選地を示す標柱が林の根方にひっそりと建っているが、気付く人はどれほどいるだろうか。

引地川を下る

お昼の弁当をゆっくり食べ、森の活力をもらったら、泉の水とともに引地川を下ることにしよう。

引地川は、この森を出て湘南の海に注ぐ約21kmの川。相模原台地を削り取り流れ下る。下流には大庭城址などもある。

東名高速道路を過ぎると、遊具のある広場や緑の見本園等もある「ふれあいの森」にでる。

この辺で、もう歩くのはちょっとという人は、相鉄線の手前の坂を上り、相鉄線のトンネル部分の上に造られメタセコイアやクスノキの植えられたプロムナードをとおる大和駅に向かうと良い。10分も歩けば大和駅となる。

相鉄線を潜ると、住宅地と厚木飛行場に挟まれた凹地の底の流れとなる。

厚木飛行場

厚木飛行場は、右手台地の上にある、その面積は500ha余。

川筋からは滑走路などは見えず、場所によって付属の建物の頭が少し見えるだけ。飛行機の爆音がなければ、飛行場があることにすら

気が付かない。

厚木飛行場は、昭和17年に日本海軍の飛行場として開設され、戦後は連合国軍に接收され、現在は米海軍と海上自衛隊が共同で使用している。

歩いている時も戦闘機と思われる形の飛行機が編隊を組み爆音を残して飛び去った。

千本桜

しばらく川に沿って歩くと、単調な護岸と住宅の続く景色が突然変わる。桜の大木が引地川の兩岸から川を覆いトンネル状になっている。千本桜といわれる地区に着いた。



その長さは約1.2km、普通に歩いて30分ほどかかる。桜の季節はいくらかかることか。

よくぞここまで住民の力で植え、育ててきたものだと感心する。

桜の名所は数多くあるが、ここもその中の一つに入るのは間違いない。しかし、この桜は、川幅を今の倍以上に広げる河川改修にともない切たおされ、植え替えられることになったそうである。

災害防止のためにはやもう得ないことだろうが、木はすぐに大きくならない。この景観を取り戻すには、あと半世紀は必要だろう。

高座渋谷駅を目指して坂道のをぼっていると、少々疲れが出たのか足取りが重くなる。

(2016.5 瀧澤)